台風がやってきた！

新品の靴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
台風がやってきた！

【Ｎコード】
Ｎ０２１４Ｖ

【作者名】
新品の靴

【あらすじ】
台風がくるとみょうにわくわくします

なにが、っていうと、理由がないわけではないけれど、とにかく、台風が近づいてくるというのは、妙にわくわくうきうきしてしまう。家にじっとこもっていることが出来ないので、思わず外に出る。雨は小降りで、風は強かった。生ぬるい風が、何かが起こりそうな、現実を飛ばす力を持っていた。

行くあてもないので、とりあえず駅へ向かってみる。すると、妙に、今日は、人が多かった。ざわざわ、している。よく観察してみると、ほとんどみんな、電車に乗るわけでもなく、降りてきたわけでもなく、どうしてか、ここにきてしまったような感じだった。

手すりにもたれかかって、広場を眺める。

風がびゅうっと一度強く吹いた。

「台風のときって、なにかが起きそうな気がしますよね」

横から声をかけられた。見ると、風で髪がばさばさしていた、二十歳半ばくらいの女性だった。

「僕も、そんな気がして、行くところもないから、ここにきたんです」

やっぱりそう思う人もいるんだな、と思って少し笑いながら答える。僕達はそれをきっかけに話をした。台風がこれからどこへ行くとか、小学校の頃は台風で学校が休みになるのを楽しみにしてたとか、でもほとんど休みにならなかったよねとか、それからこういう日って現実から離れられて楽ですよね、なんて言って、そこからお互い自分の愚痴をぽつぽつもらしたりして、ほんとうに、なんでもない、他愛のない話をした。

雨が強くなってきた。

風がびゅうっと、強く吹いた。

お互い、別れるときが来たと、わかっていた。

「それじゃあまた」

「はい。それじゃあまたいつか」

何もない、ただの会話。知らない人と、ちょっとだけ、話しただけ。なのに、僕は、どうしてだろう、とても、心が軽くなったような気がしていた。

明日が、明るかった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0214v/

台風がやってきた！

2011年10月7日12時07分発行